

# 授業科目 小児看護学概論

【担当教員名】 松井 由美子		対象学年	2	対象学科	看護
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		◎	
【概要・一般目標：GI0】 小児看護の歴史を学び小児看護の役割について理解を深める。小児看護における主な理論を知り子どもの権利や権利擁護の意義についても学習する。 また、健康問題を持つ子どもとその家族の特徴や看護について学び、子どもの QOL サポーターとしての援助者の役割について考察する。事例学習を通して看護診断プロセスを学習し、健康問題を持つ子どもとその家族の権利を擁護した QOL サポートのあり方を PBL 学習を用いたグループワークを通して深めていく。					
【行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の歴史と意義について説明できる。</li> <li>2. 子どもの権利と権利擁護に対する看護師の役割を述べられる。</li> <li>3. 子どもに関わる理論について説明できる。</li> <li>4. 健康障害や入院が子どもとその家族に与える影響について述べられる。</li> <li>5. 子どもに見られるおもな症状の特徴について述べられる。</li> <li>6. 健康問題を持つ子どもとその家族のアセスメントを行い、看護診断プロセスを体験できる。</li> <li>7. 特徴的な子どもの疾患の病態生理・診断・治療について説明できる。</li> <li>8. 健康障害を持つ子どもの看護と QOL について話し合い発表できる。</li> <li>9. 自主的に PBL 学習に参加し、問題解決のためにグループの中で貢献できる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	小児看護の歴史とその意義	1	講義、担当：松井 由美子		
2	子どもの権利とその擁護	2	講義、担当：松井 由美子		
3	小児看護に関する主要理論	3	講義、担当：松井 由美子		
4	健康障害や入院が子どもとその家族に与える影響	2, 3, 4	講義、担当：松井 由美子		
5	子どもに見られる主な症状	5	講義、担当：松井 由美子		
6	さまざまな検査や処置、治療を受ける子どもとその家族の看護	2～8	講義、担当：松井 由美子		
7	小児看護における看護診断プロセス	2～9	講義・演習、担当：松井 由美子		
8	BL グループワーク（発表資料作成）	2～9	PBL 演習、担当：松井 由美子 他		
9	先天異常、新生児疾患を持つ子どもとその家族の QOL と看護	2～9	PBL 発表、担当：松井 由美子 他		
10	呼吸器疾患、循環器疾患を持つ子どもとその家族の QOL と看護	2～9	PBL 発表、担当：松井 由美子 他		
11	消化器疾患、血液疾患、悪性腫瘍を持つ子どもとその家族の QOL と看護	2～9	PBL 発表、担当：松井 由美子 他		
12	代謝性・内分泌疾患、アレルギー疾患、腎・泌尿器疾患を持つ子どもとその家族の QOL と看護	2～9	PBL 発表、担当：松井 由美子 他		
13	神経疾患、運動器疾患、精神疾患を持つ子どもとその家族の QOL と看護	2～9	PBL 発表、担当：松井 由美子 他		
14	事故、外傷、虐待を受けた子どもとその家族の QOL と看護	2～9	PBL 発表、担当：松井 由美子 他		
15	国家試験対策・まとめ	2～9	講義、担当：松井 由美子		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		ナーシング・グラフィカ 小児看護学 1 小児の発達と看護	中野 綾美編集	株式会社メディカ出版	2006・3,800 円＋税
参考書		系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 こどもの病気の地図帳 NANDA 看護診断 定義と分類	奈良間 美保 鴨下重彦、柳澤正義監修	医学書院 講談社 医学書院	2011・3,300 円＋税 2002・4,000 円＋税 2014
その他の資料					
【評価方法】 試験 (50%程度)、PBL プレゼンテーション (50%程度)		【履修上の留意点】 PBL 学習を通して子どもとその家族の QOL について考えていきましょう。			